

警戒・広報

事例
1

火災予防の広報活動に出動し、管内の国道を消防車で警光灯を点灯して走行中、交差点を右折するため右折レーンに進入した際、対向車が赤色灯を見て停止した。後続車は無く事故には至らなかった。

結果

負傷なし

▶▶▶ 対策

赤色灯を点灯しての走行が、一般ドライバーに与える心理的な影響を考え、慎重に運転する。
機関員以外の隊員も、他車の動向に充分目を配る。

警戒・広報

事例
2

祭の会場に消防団活動啓発のために出動し、一般来場者（主に幼児）の消防車乗降希望者の補助を担当し、幼児を消防車に乗せるため補助をした際、腰を痛め身動きがとれなくなった。

結果

腰部挫傷、急性疼痛

▶▶▶ 対策

前かがみの姿勢になる作業をするときは、しっかりと腰を落とす。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

警戒・広報

事例
3

年末特別警戒に出動し、夜間に巡視のため2名が歩道上を並んで歩行していた際、逆方向から自転車がかなりのスピードで走行して来たため、ぶつかりそうになった。



結果

負傷なし

▶▶▶ 対策

徒歩で特別警戒をする際は、昼夜を問わず、並列ではなく直列で行う。警戒灯の本数を増やし、懐中電灯も活用する。

警戒・広報

事例
4

出初式に出動し、手押しポンプによる竿頭標的落とし競技でポンプのつき手として競技していた際、ポンプの台が勢いで浮き上がり左足の甲の上に乗る形となった。

結果 左足甲打撲

 対策

手押しポンプの競技を行う際は、ポンプの台を固定する。

警戒・広報

事例
5

出初式に出動し、道路上での一斉放水で筒先担当員として管鎗を保持をしていた際、放水の反動で体が振られ側溝に足を取られて転倒し、管鎗を放してしまったため管鎗が水圧によって振り回され同僚団員の足に当たった。

結果 右足背皮膚剥離脱創、
両足打撲

 対策

ホース結合後、「引っぱり動作」で完全結合を確認する。
放水開始時、機関員はスロットルを徐々に上げながら水圧を上げる。
放水員は管鎗をしっかりと保持し機関員との連携を密にとる。
放水圧力により補助員を増やす。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

警戒・広報

事例
6

祭事警戒に出動し、警戒活動に伴い警戒場所に設置されている防火水槽の水位確認のため鉄蓋を開放し、確認後、閉鎖しようとした際、防火水槽の開口部に足背部がかかっていたため左足背部に防火水槽の鉄蓋が落下した。



結果 左足背部打撲

対策

防火水槽の鉄蓋を開閉する場合には、鉄蓋を必要な高さだけ持ち上げ、ボール等をかませ、スライドさせて開閉する。
全員で周囲の安全確認及び足もとの確認を実施する。

警戒・広報

事例
7

出初式に出動し、一斉放水準備のため小型動力ポンプを車両から降ろそうとした際、腰部に負荷がかかり負傷した。



結果

腰部捻挫

▶▶▶ 対策

重量物を持ち上げる場合には、足を曲げて腰を落とし、足腰と手の力で垂直に持ち上げる。

できるだけ多くの人員で行う。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

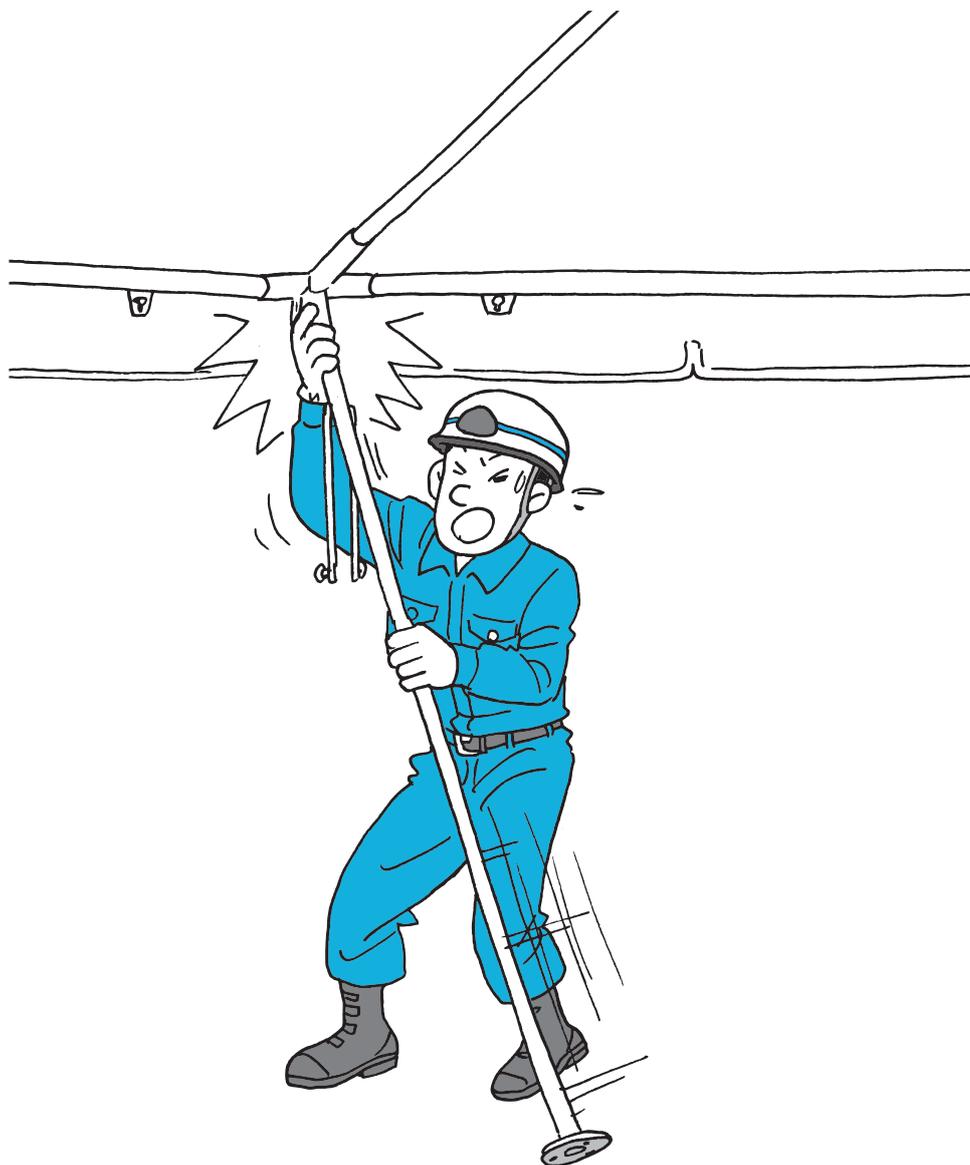
往復経路

点検整備
その他

警戒・広報

事例
8

査閲大会に出動し、会場の公共施設の駐車場で準備のためテントを設営していた際、テントのそれぞれの脚に人員を配置し、脚を持ち上げて伸ばした際、1人の脚を持つ位置が金具に近かったため右手が金具に挟まれた。



結果

右手第4指末節骨折

対策

持つ位置を「指差し呼称」で確認する。
作業時には合図をする人員を配置する。
テントの足を一度に起こさず、左右いずれか半分ずつ起こす。